

代表の一言

24時間、あなたはどよう使う？



タイムキーパー！
 代表取締役
 杉山 淳子
 と
 ソフトウェア開発部
 軽部 豊

最近、朝が次第に早くなってきているのを感じます。年取ったからだろうという突っ込みがきそうですね。もちろん、それはそうなのでしょう。年を取るごとに時間の大切さに気づき、無駄に無意味に過ごしていた過去の自分を情けなく思うわけです。

会社に居ると、ひっきりなしに、電話、訪問者、社内の報・連・相、メール対応に追われてしまっている自分に気がつきます。「まとまった時間」、それも頭が冴えている状態かつ精神的に落ち着いた状態にいる「まとまった時間」がほしいと思うと、早朝しかないということに思い至ります。知り合いの経営者の方々や、コンサルタントの方々皆さん早起きしてらっしゃるのは、そういうことだったのかと今更ながら気づくわけです。

人は誰もが平等に1日24時間の時間があるわけです。ところが同じ時間も使い方によっては成果であったり気づきに各段の差が出てしまいます。そこで「時間の有効利用」という言葉が出てくるんでしょうね。

私にとって時間を有効利用するコツは、「有効に使うことを意識しすぎない」ことでもあります。なぜなら、有効=結果を出すということであれば、小さな時間の中で結果を求め続けることは逆に大きな時間を失うこともあるからだと思うからです。もちろん、小さなことの積み重ねが大きな成果になることは間違いのない事実なのですが、

お客様の声

はじめまして。株式会社ハイテックスの福本と申します。ハイテックスでは、3次元形状処理技術をコア技術として、日本の産業基盤である「ものづくり」や「インフラシステム」など身近な暮らしを支えています。私は2007年に東京大学で修士を修了し、「社員、顧客、取り巻くすべての人々を幸せにすること」という企業理念に強く共感し、株式会社ハイテックスに入社いたしました。

アイロベックス通信を読んで、記録としてのツールだけでなく、社内の雰囲気やイメージとして伝えるツールとして活用できることを学びました。早速、弊社でも「Hitech Business Review」というタイトルで社内広報誌を作成しました。今後もWin-Winの関係となれるよう、私どもから能動的に関係を築いていきたいと考えています。

日常の冒険家を目指せ！

私がお勧めする、時間の有効な使い方は、「日常の冒険家になること」です。



突然ですが、2004年の5月25日にみなさんは何をされておりましたか？ さすがに即答できる方はいないと思いますが、日記などをつけていれば思い出せますよね。

時間を有効に使うには、「短縮」という観点だけではなく「思い出す」という観点が重要になると考えます。思い出すには、目印が必要です。目印をつくる方法としては、「日記をつける」、「人に教える」、「身近な例に置きかえる」など、自分に印象を残すための方法が挙げられます。私は特に「身近な例に置きかえる」を意識して実践し続けています。

例えば、ソフトウェアの開発工程ひとつでも「要件定義」-「設計」-「実装」-「テスト」とありますが、杉山社長が大好きな料理に例えるなら「何が食べたい?」-「レシピ」-「調理」-「味見」といった身近な例で例えることができます。私はこれを「知識のリンク」と呼んでいます。すなわち、自分がイメージできる体験に置きかえて学習することで記憶の中に大きな目印を作ることができます。

逆に、どんなに素晴らしいやり方でも自分の体験に基づく理解から実践を積み重ねなければ聞いていないのとはほぼ同じです。この観点で「日常」をとらえてみると、私たちが生きているだけで「見えるもの」、「聞こえるもの」、「感じるもの」など、とてつもない量の情報が飛び込んできます。

私たちは頭がパニックにならないように情報量をフィルタリングしてスポット的に情報を得ているわけです。

このスポットを拡げる意識を持ち、飛び込んできた情報を自分の知識や体験に置きかえる練習をします。結果、様々な体験や知識がリンクされ、より実用的なスキルとしてフィードバックされます。

こうして日常を見直すと、成長するチャンスという宝があらゆる場所に存在しているように思いませんか？

人生という冒険の舞台上、唯一、色褪せない宝があるとすればそれはきっと知識や経験でしょう。

「人との出会い」だけでなく、感性や概念など日常のあらゆるものと出会い、成長という宝を探すために、「日常を冒険する」というクセをつけてみませんか？



株式会社ハイテックス
 福本 壘 様

今月のスター社員

まずはしっかりヒアリング！

石塚：プログラマとして社内の開発の屋台骨になっている中村さんは5月から、初の新人教育担当をされると伺いました。毎日、担当新入社員の状況を確認しなければいけないので、忙しくなりますよね？

中村：そうでもないですよ。意外と時間をとられてしまうのは、新入社員の質問への対応だと思います。しかし、内容をしっかり聞き、重要度と緊急度を判断して、臨機応変に対応すれば、それほど忙しくなることはありませんよ。

石塚：スゴイ。
 中村：ただ、話しかけられたときは、必ずその内容だけは聞きます。私の仕事が忙しい時は、回答を待ってもらうこともありますが、内容だけは、先に理解しておくようにしています。



ITプロフェッショナル部
 坊次郎 こと
 中村 次郎

石塚：そうですね。でも、なぜそういった対応をするようになったのですか？
 中村：私のチームリーダーである、加藤さんを見習って、この方法を編み出しました。加藤さんは、本当に時間の使い方が、上手いと思います。私を含め8人もの部下、一人一人にしっかり目を光らせているんです。怖いぐらい。しかも、仕事を一緒にすると、「そんな資料いつ作ったの?」というような資料を

私が気づかないうちに作ってしまっているんですよ。いつも加藤さんの動きを研究しています。

石塚：以前、加藤さんにアイロベックス通信の記事を書いていただいた時には、締め切り1週間前に原稿が届き、私もビックリしました！

では、新入社員教育担当では無く、プログラマとして、自分の成長のために、何かやっていますか？

中村：最近Javaの勉強を行っています。次の仕事がJavaを使った開発なのと、教育でJavaを教える予定になっているからです。
 石塚：“忙しくない”とは言え、勉強する時間はどうやって生み出しているのですか？

中村：通勤の時間が一番もったいないので、そのときにやっています。
 石塚：やっぱり、通勤時間は、皆さん活用しているようですね。(詳しくは、下の宮下の記事をご参照下さい。)

中村：この場をお借りして、新入社員の方々にメッセージを残していいですか？

石塚：お願いします。
 中村：新入社員の教育期間も終盤です。課題やアイロベックスカレッジ(自由テーマでの研究発表)でとても大変になるとは思いますが、頑張ってください。困った時は講師や教育の担当者だけでなく、周りの先輩もガンガン使うようにしてください！
 嫌なことがあったときや辛いときは、宴会部長の加藤さんに相談すれば、パーっとおいしいものをご馳走してくれますよ！

アイロベックス社員コーナー

宮下式 資格試験必勝法！

私が資格試験の勉強時間の確保において気をつけていることは、「勉強に使える時間がどれだけあるか」ということです。そして、それを把握するために、自らの生活スタイルを「引き算」しながら見直しています。24時間から日常で行っている事柄にかかる時間を引き、残り時間を勉強に充てるという方法です。

例えば、まず24時間から「睡眠時間」を引きます。次に「食事」「仕事」「家事」などの時間を引いていって、残った時間を使うということです。簿記試験の勉強時間はこれを利用して逆算していったところ、通勤での往復30分、昼休みの後半30分、そして就寝前の1時間の合計2時間は勉強に充てるということがわかりました。

この引き算を行うと、最終的に残る時間が予想以上に少ないことに気づくはず。使える時間があまりにも少ない場合は、「引き算した時間の中で、減らせるものはないか?」「何かの作業を、並行させることは出来ないか?」といったことを考えてみてください。そうすることで、きっと時間を有効に使うことができ、残った時間を好きな勉強に充てるできるようになります。

システム事業部
 アタック こと
 宮下 晃弘



2007年4月入社
 2007年4月
 基本情報処理技術者試験合格
 2007年10月
 ソフトウェア開発技術者試験合格
 2007年12月
 日商簿記3級合格

入社後わずか1年間で既に3つも資格を取得している資格ゲッターです!!(編集長)



MTコンテストでアスキー賞受賞

アイロベックスのHPが、MTコンテスト2007()でアスキー賞を受賞！今年はコンテストへの総応募315サイトから、見事入賞いたしました。



受賞ホームページはこちら
<http://www.ilovex.co.jp>

企画マーケティング部
 UFO こと
 山田 美穂

()「非常に自由度の高い、本格的なログツール」として世界中で多くのユーザーに支持されている Movable Type。その Movable Type で作成されたサイトのコンテストです。(詳しくはMTコンテストページへ <http://mt.rsh.jp/>)

XziNet プロジェクト管理 新バージョンに!!



5/25(日)にXziNetProject Ver5.1 をリリースしました。今回は、デザインを一新！ベースカラーが、オレンジからブルーに変わり、遊び心も入れたデザインです。操作性も向上しています。弊社ホームページよりお試し版を利用できます。是非お試しください。

(企画マーケティング部 クールビューティーこと大屋千春)

編集後記

今回は時間の使い方がテーマです。時間を効率良く使うため、皆さん色々な工夫をしています。個人的には「日常の冒険家になる」というワードが気に入りました。映画「インディージョーンズ」もそろそろ公開ですし、冒険心が芽生える季節なんですかね。